

〔クロチアニジン粒剤〕

農林水産省登録 第20800号

性 状：類白色細粒

毒 性：普通物

危 険 物：—

有効年限：5 年

包 装：1 kg×12、3 kg×6、12 kg×1

# ダントツ®粒剤

有効成分：クロチアニジン……………0.50%



「住友化学農業ガイド」の見方：i-農カサイトの「製品情報」、「農業ガイドを見る」から、「農業ガイドの見方」をご覧ください。  
本剤の最新情報：こちらのQRコードを読み取ると i-農カサイトに掲載されている本剤の最新情報がご覧になれます。

## 〔適用と使用方法〕

作物名	適用害虫名	使用量	使用時期	総使用回数	使用方法
稲	カメムシ類	3～4 kg/10 a	7日前	本 剤：3回 クロチアニジン：4回 (#9)	散布
	ウンカ類 ツマグロヨコバイ ニカメイチュウ	3 kg/10 a			
稲育苗 (箱育苗)	イネミズゾウムシ イネドロオウムシ イネヒメハモグリバエ	育苗箱 (30×60 ×3 cm、使用土 壤約5 ℓ) 1箱当り 50 g	移植3日 前 ～移植当 日	本 剤：1回 クロチアニジン：4回 (#17)	育苗箱の 苗の上か ら均一に 散布する
きゅうり	アブラムシ類 コナジラミ類 ミナミキイロアザミウマ	1～2 g/株	育苗期 後半	本 剤：1回 クロチアニジン：4回 (#1)	株元処理
	コナジラミ類 アブラムシ類	2 g/株	定植時		植穴処理 土壌混和
	アブラムシ類		1～2 g/株	定植後 但し、 収穫前日	本 剤：3回 クロチアニジン：4回 (#1)
	アブラムシ類 ミナミキイロアザミウマ	1～2 g/株	定植時	本 剤：1回 クロチアニジン：4回 (#2)	植穴処理 土壌混和
アブラムシ類	1～2 g/株		育苗期 後半	本 剤：1回 クロチアニジン：4回 (#1)	株元処理
メロン	アブラムシ類	1～2 g/株	定植時		本 剤：1回 クロチアニジン：4回 (#1)
	コナジラミ類				
	アブラムシ類	2 g/株	定植後 但し、 収穫前日	本 剤：3回 クロチアニジン：4回 (#1)	株元散布
	ミナミキイロアザミウマ トマトハモグリバエ				
トマト ミニトマト	アブラムシ類 コナジラミ類	1 g/株	育苗期	本 剤：1回 クロチアニジン：4回 (#1)	株元処理
	アザミウマ類		育苗期 後半		
	アブラムシ類 コナジラミ類 ハモグリバエ類 アザミウマ類	1～2 g/株	定植時	本 剤：3回 クロチアニジン：4回 (#1)	植穴処理 土壌混和
	アブラムシ類		定植後 但し、 収穫前日		

作物名	適用害虫名	使用量	使用時期	総使用回数	使用方法
なす	アブラムシ類	1～2 g/株	育苗期 後半	本 剤：1回 クロチアニジン：4回 (#1)	株元処理
	コナジラミ類	1 g/株			
ピーマン	アブラムシ類 マメハモグリバエ コナジラミ類	1～2 g/株	定植後 但し、 収穫前日	本 剤：3回 クロチアニジン：4回 (#1) 本 剤：2回 クロチアニジン：3回 (#3)	株元散布
	いちご	1 g/株	育苗期 後半	本 剤：1回 クロチアニジン：3回 (#3)	株元処理
レタス	アブラムシ類	#13	育苗期 後半	本 剤：1回 クロチアニジン：3回 (#4) 本 剤：1回 クロチアニジン：3回 (育苗期の株元 処理は1回、 散布は2回)	株元処理
非結球レタス		0.5 g/株			
なばな	アブラムシ類	1～2 g/株	定植時	1回	植穴処理 土壌混和
にがうり				本 剤：1回 クロチアニジン：4回 (#2)	
ブロッコリー	アブラムシ類 ハイマダラノメイガ	0.25 g/株	は種時	本 剤：1回 クロチアニジン：4回 (#7)	#5
	ネギアザミウマ	#13	育苗期 後半		#12
	コナガ アオムシ アブラムシ類 ハイマダラノメイガ				0.5 g/株
	アブラムシ類	1～2 g/株	定植時		株元処理
	コナガ・アオムシ ハイマダラノメイガ	2 g/株			植穴処理 土壌混和
はなっこりー	アブラムシ類	6 kg/10 a	定植時	本 剤：1回 クロチアニジン：3回 (#11)	作条処理 土壌混和
キャベツ	アブラムシ類 ハイマダラノメイガ	0.25 g/株	は種時	本 剤：1回 クロチアニジン：3回 (#4)	#5
	アブラムシ類 ネギアザミウマ	3～6 kg/10 a			播溝処理 土壌混和
	アブラムシ類 ネギアザミウマ コナガ アオムシ ハイマダラノメイガ	6 kg/10 a	地床 育苗期		株元散布
	#13	育苗期 後半	#14		

作物名	適用害虫名	使用量	使用時期	総使用回数	使用方法
キャベツ	アブラムシ類 ハイマダラノメイガ コナガ・アオムシ ネギアザミウマ ネキリムシ類	0.5 g/株	育苗期 後半	本 剤：1回 クロチアニジン：3回 (#4)	株元処理
	アブラムシ類 ハイマダラノメイガ	1～2 g/株	定植時		植穴処理 土壌混和
	コナガ アオムシ	2 g/株			
はくさい	アブラムシ類 ハイマダラノメイガ	0.25 g/株	は種時	本 剤：1回 クロチアニジン：4回 (#2)	#5
	アブラムシ類 コナガ アオムシ ハイマダラノメイガ ネキリムシ類	0.5 g/株	育苗期 後半		
	コナガ アオムシ	2 g/株	定植時		植穴処理 土壌混和
	アブラムシ類 ハイマダラノメイガ	1～2 g/株			
かぼちゃ	アブラムシ類	2 g/株			
セルリー					
だいこん	アブラムシ類	3～6 kg/10 a	は種時	本 剤：1回 クロチアニジン：3回 (は種時の土壌 混和は1回、 は種後は2回)	播溝処理 土壌混和
かぶ こまつな ほうれんそう					
チンゲンサイ		定植時	本 剤：1回 クロチアニジン：4回 (#15)	作条処理 土壌混和	
みずな		6 kg/10 a	は種時	本 剤：1回 クロチアニジン：3回	播溝処理 土壌混和
しゅんぎく					
ねぎ		ネギアザミウマ ネギハモグリバエ		植付時	本 剤：1回 クロチアニジン：4回 (#6)
	タネバエ ネギアザミウマ ネギハモグリバエ	溝渇処理 土壌混和			
あさつき わけぎ	ネギアザミウマ ネギハモグリバエ	3～6 kg/10 a	3日前	本 剤：4回 クロチアニジン：4回 (#6)	株元散布
らっきょう	ネギアザミウマ ネダニ類			4回	
じゅんさい	トラフユスリカ	6 kg/10 a	21日前	2回	湛水散布
さとうきび	ハリガネムシ類	4～6 kg/10 a	植付時		
	メイチュウ類 アオドウガネ	6～9 kg/10 a		本 剤：1回 クロチアニジン：7回 (#20)	溝渇処理 土壌混和

作物名	適用害虫名	使用量	使用時期	総使用回数	使用方法
さとうきび	カンシャコバネナガカメムシ シロスジオサゾウムシ	6～9kg/10a	培土時	本剤：3回 クロチアニジン：7回 (#20)	株元処理 土壌混和
	カンシャコバネナガカメムシ		30日前		株元散布
ばれいしょ	アブラムシ類	3～6kg/10a	植付時	本剤：1回 クロチアニジン：4回 (#16)	植溝処理 土壌混和
かんしょ		6kg/10a	育苗期	本剤：1回 クロチアニジン：3回 (#18)	株元処理
	コガネムシ類	6～9kg/10a	植付前		全面処理 土壌混和
	トビロヒョウタンゾウムシ コガネムシ類				作条処理 土壌混和
やまのいも	コガネムシ類		植付時	本剤：1回 クロチアニジン：4回 (#19)	植溝処理 土壌混和
れんこん	クワイクビレアブラムシ	3kg/10a		本剤：3回 クロチアニジン：4回 (#19)	湛水散布
		4～6kg/10a	7日前		無人航空機による散布
だいず	アブラムシ類 フタスジヒメハムシ	6kg/10a	は種時	本剤：1回 クロチアニジン：4回 (#10)	播溝処理 土壌混和
かんきつ (苗木)	ミカンハモグリガ	10～20g/樹	育苗期	3回	株元散布
うり類 (漬物用、ただし、とうが ん、食用へちまを除く)	アブラムシ類	1～2g/株	定植時	1回	植穴処理 土壌混和
とうがん				本剤：1回 クロチアニジン：4回 (#7)	
食用へちま					
くわい		6kg/10a	7日前	3回	湛水散布
きく	アブラムシ類	1～2g/株 6kg/10a	発生 初期	4回	生育期 株元散布
	マメハモグリバエ アザミウマ類	2g/株			
花き類・ 観葉植物 (きくを除く)	アブラムシ類	1～2g/株 6kg/10a			
	アザミウマ類	2g/株			
げっきつ	ミカンキジラミ	30～40g/株			

#1：育苗期の株元処理及び定植時の土壌混和は合計1回、散布及び定植後の株元散布は合計3回

#2：定植時の土壌混和は1回、散布は3回

#3：定植時までの処理は1回、散布及び定植後の株元散布は合計2回

#4：定植時までの処理は1回、定植後の散布は2回

#5：覆土後セル成型育苗トレイまたはペーパーポットの上から散布する

#6：定植時までの処理は1回

#7：定植時までの処理は1回、定植後の散布は3回

#9：直播では種時又は移植時までの処理は1回、本田での散布、空中散布、無人航空機散布は合計3回

#10：は種時の土壌混和は1回、散布は3回

#11：定植時の土壌混和は1回、散布は2回

#12：セル成型育苗トレイまたはペーパーポットの覆土に均一に混和する

#13：セル成型育苗トレイ1箱またはペーパーポット1冊(30×60cm、使用土壌約1.5～4L)当

り 50 g

#14: セル成型育苗トレイまたはペーパーポットの上から散布する

#15: は種時及び定植時の土壌混和は合計1回、散布は3回

#16: 植付時の土壌混和は1回、植付後は3回

#17: 移植時までの処理は1回、本田での散布、空中散布、無人航空機散布は合計3回

#18: 植付前の処理は1回、植付後は2回

※かんしょ栽培での農薬の使用回数は、種いもあるいは苗を植えて出てきた茎葉を切り離して二次苗とした場合、その使用回数はリセットされる。そのため、本剤を育苗期に使用しても、植付用苗を切り離すと「植付前」にも使用することができる。

#19: 植付時までの処理は1回、植付後は3回

#20: 植付時までの処理は1回、植付後の粒剤の処理は3回、水和剤の処理は3回



## 効果・薬害等の注意

- 本剤を無人航空機による散布に使用する場合は、次の注意を守る。
  - 散布は各散布機種種の散布基準に従って実施する。
  - 散布にあたっては散布機種種に適合した散布装置を使用する。
  - 事前に本剤の物理性に合わせて散布装置のメタリング開度を調整する。
  - 本剤の飛散によって他の植物に影響を与えないよう散布区域の選定に注意し、当該圃場周辺部への飛散防止のため散布装置のインペラの回転数を調整する。
  - 水源池、飲料用水等に本剤が飛散、流入しないように十分注意する。
- キャベツ、はくさい、かぶ、こまつな、チンゲンサイに使用する場合は、薬害が生じるおそれがあるので使用量を厳守する。
- キャベツ、はくさいのは種時に使用する場合は、薬害が生じる場合があるので覆土後に使用し、覆土前の使用はさける。
- 薬剤を株単位で使用する場合には、10 a 当り 25kgを超えないように適用の範囲内で単回使用量を調整する。
- 稲（箱育苗）に使用する場合は次の注意を守る。
  - 育苗箱の上から均一に散布し、葉に付着した薬剤を払い落とし、そのまま田植機にかけて移植する。
  - 軟弱徒長苗、むれ苗、移植適期を過ぎた苗などには薬害を生じるおそれがあるので注意する。
  - 誤って過剰に使用したり、本剤使用後4日以上移植せずに育苗箱中におくと葉枯れなどの薬害を生じることもあるので、所定の使用量、使用時期、使用方法を厳守する。
  - 本田の整地が不均整な場合は薬害を生じやすいので、代かきはていねいに行い、移植後田面が露出したりしないように注意する。移植後は直ちに入水し、水深2～3 cm程度を保ち浅水はさける。
- 本剤を水稻の本田に使用する場合は、3 cm前後の湛水とし、田面に均一に散布し散布後4～5日間は湛水状態を保ち、散布後7日間は落水、かけ流しはしない。
- 本剤をくわい、れんこん、じゅんさいに使用する場合は、田面に均一に散布し散布後4～5日間は湛水状態を保ち、散布後7日間は落水、かけ流しはしない。
- かんきつに使用する場合は、今期に収穫の見込みのない苗木に使用し、散布後軽く散水する。
- 適用作物群に属する作物又はその新品種に本剤をはじめて使用する場合は、使用者の責任において事前に薬害の有無を十分確認してから使用する。なお、病害虫防除所等関係機関の指導を受けることが望ましい。
- 本剤の使用に当たっては、使用量、使用時期、使用方法を誤らないように注意し、特にはじめに使用する場合は、病害虫防除所等関係機関の指導を受けることが望ましい。



## 安全使用上の注意



- 蚕に対して影響があるので、周辺の桑葉にはかからないようにする。
- ミツバチに対して影響があるので、以下のことに注意する。
  - ミツバチの巣箱及びその周辺に飛散するおそれがある場合には使用しない。
  - 関係機関（都道府県の農業指導部局や地域の農業団体等）に対して、周辺で養蜂が行われているかを確認し、養蜂が行われている場合は、関係機関へ農薬使用に係る情報を提供し、ミツバチの危害防止に努める。
- マルハナバチを利用する場合、本剤使用後 20 日目ごろより後に導入する。  
ただし、影響日数は環境条件により多少変動する場合がありますので注意する。
- 水産動植物（甲殻類）に影響を及ぼすので、河川、養殖池等に飛散、流入しないよう注意して使用する。
- 無人航空機による散布で使用する場合は、飛散しないよう特に注意する。
- 散布後は水管理に注意する。
- 街路、公園等で使用する場合は、使用中及び使用後（少なくとも使用当日）に小児や使用に関係のない者が使用区域に立ち入らないよう縄囲いや立て札を立てるなど配慮し、人畜等に被害を及ぼさないよう注意を払う。
- 直射日光を避け、食品と区別して、なるべく低温で乾燥した場所に密封して保管する。

## 〔品目特性〕

- 浸透移行性に優れ、カメムシ目、ハエ目、コウチュウ目、チョウ目、バッタ目、アザミウマ目の各種害虫に高い防除効果を発揮します。
- 野菜・花き類のアブラムシ類、コナジラミ類、アザミウマ類等の吸汁性害虫に加えて難防除害虫であるマメハモグリバエ等のハモグリバエ類に対して高い防除効果を示します。
- 浸透移行性に優れ、定植時の植穴処理、又は生育期の株元処理で高い防除効果を発揮し、その効果は長期間持続します。
- 有機リン系、カーバメイト系、合成ピレスロイド系薬剤に対する感受性が低下した害虫にも高い効果を示します。#16：植付時の土壌混和は1回、植付後は3回